

「初めての清掃作業を忘れずに」

(株)ベルックス 高橋 功一

論文・標語募集の時期が来ると、私は、初めて清掃作業に携わった時のことを思い出します。それが今のペースにもなっています。

入社後初めて、先輩の指導で清掃作業に従事しました。それまでは、床面清掃と言われても、洗剤で床を洗浄するといった知識しかありませんでした。ですから、広い廊下や階段、室内等の洗浄にはどんな機材を使用するのかなど、私には皆目見当が付きませんでした。ポリッシャーという、それまで聞いたことのない名称を耳にしたのはその時です。

いよいよ定期清掃の現場へ。ポリッシャーを見て最初に思ったのが、大きさと重さでした。そして、“こんな機材を自分で操縦できるのか”という不安が頭を過ぎりました。まず操作の仕方を学びました。そして、自分の手で初めて機材に触れたその瞬間、突然左右に暴れ出したポリッシャー。身の危険を感じた私が、思わずスイッチから手を放した時のことを今でも鮮明に覚えています。

1時間、2時間と練習するにつれて左右に曲がる感覚を徐々につかみ、なんとか1人で操作出来るようになりました。しかし、油断は禁物です。大きな鉄の固まりを顧客の建物の壁に接触させたり、最悪の場合は、人を巻き込んだ重大事故につながったりします。ポリッシャーを操作する際は、“周囲の状況を十分に把握して”と肝に銘じています。

覚えなければいけないことはまだまだありました。その一例が剥離剤です。初めて扱った時

のことです。実際に使用してみて驚きました。床面がスケートリンクのように滑るのです。そうした状況の中でポリッシャーを使用するので、転倒事故防止をはじめ作業には細心の注意が必要です。

ところが、その日の作業も無事終了・・・と思って矢先、手になにやら違和感を感じたのです。無意識のうちに、剥離剤に素手で触れていたのです。白く変色した我が手を見て、万が一にでも目に入っていたらと、背筋が寒くなるのを覚えたものです。清掃作業とは、当初私が描いていたイメージとは正反対で、甘いものではありませんでした。

それから4年が経過しました。私は現在、事務職員として函館営業所に勤務し、多数の現場の定期清掃にも入っています。ポリッシャーの扱いも、入社時に比べて大分慣れてきました。しかし、機器の操作に限らず、清掃現場では注意しなければならないことが沢山あります。それらの一つ一つを確かめ反芻しながら業務に当たっています。ベテランの従業員さんから学ぶことも多く、私にとって次のステップへの貴重な糧ともなっています。

常に安全に心がけ、真心を込めて任務を遂行することが、オーナー様からの信頼にもつながっていくにだと思います。これは、清掃業務に限りません。今年度の経営方針の重点の一つが『現場力の強化』です。これからも精一杯努力していきたいと思います。

「労働事故防止の取り組み」

北海道クリーン・システム㈱ 藤谷 ゆきえ

私は平成十一年二月に入社して以来、札幌駅の商業施設である「パセオ」の清掃を担当しており、早いもので十年が経過しました。

現在はスタッフの点呼執行・業務指導などを担当しています。

私の職場の平均年齢は二十二歳と若く、スタッフの半数が男性です。

日中時間帯のスタッフは勤続年数が長く、半数が勤続四年以上のベテランです。

夜のシフトは大学生のパート社員を中心に構成されており、制服もセーラー服スタイルで若者らしく、利用されるお客様やオーナー様から「爽やか」との声を頂き好評です。

一年ほど前に私の職場において労働災害事故が発生しました。事故概要は、ダストクロスモップをセットするためにモップ柄を壁側に置いてあるダンボール箱に立て掛けていたところ、モップ柄が倒れて横にいた別のパート社員の右目に当たり、眼球を打撲し全治十日の診断を受けたのです。

モップを床面に寝かせて準備するという指導がされていましたが、この基本動作が守られていなかったために事故は発生してしまいました。

パート社員の平均勤続年数は卒業や就職で二年と短く毎年入れ替わるため、せっかく教育し理解させても、基本動作を定着させることが難しいのが現状です。

私は常日頃からスタッフに対して、不安全な動作をその場で直ぐに改善させるよう心掛けています。

改善されればその場で褒め、改善されなけれ

ば「その動作が何故危険なのか」「事故を起こせばお客様やオーナー様や会社に迷惑をかけることになり、自分自身も痛い思いをする」このようなことを話し、会話を通じてコミュニケーションを図り理解させるようにしています。

注意だけでなく褒めることがスタッフのやる気などに結びつき、事故防止に繋がっていると信じ日々実践しています。

事故発生後は事故概要や対策について周知すると共に注意喚起を図っていますが、点呼を行なう者として、スタッフが事故防止への意識を高めることで再び同じ事故をおこさせないことが私の使命だと思います。

点呼周知では業務連絡事項だけではなく安全や事故防止について話をしていますが、短い点呼の時間を有効に活用するため、できるだけ簡潔でわかりやすい言葉を使って指示しています。

常日頃、職場内をこまめに巡回するように心掛け、実態把握をした上で業務指示をすると共に、スタッフ全員が指示事項を理解しているかどうかまで気を配り、分かりやすくそして厳正な点呼執行が出来るよう、自己研鑽に取り組んでいきます。

また、「ヒヤリ・ハット」活動についても自分から話題を投げかけスタッフから話しを引き出し、「ヒヤリ・ハット」した体験を、そのままにしておくと、いつかは事故に結びつくことを気付かせることにより、事故防止の意識の高揚を図り、「事故の芽」を小さいうちに摘み取る職場の雰囲気作りに邁進したいと思います。

労働災害防止対策への提言

(新入社員のケガ防止の取組について)

北海道クリーン・システム(株) 大 家 保

私共の職場は、JR北海道の特急列車内で行っている車内販売用商品の積卸しを行っております。

取扱い列車本数は29本で、取扱い商品は、飲料・雑貨など約80品目になります。

電動台車で、札幌駅高架下事務室から各ホームまで運搬し出発列車に積込み、到着列車から取卸しする作業が主たる業務です。

使用する台車は、バッテリー駆動で、自重160kg、積載商品重量が平均150kgで総重量は310kgになります。

この運搬作業中に新入社員のケガが続発いたしました。20年1月と5月に事務室入口で「スベリ転倒・前輪に足を轆かれて受傷」6月には、駐車場入口で「入場の車と接触」の事故が発生しました。いずれの事例も入社1ヶ月未満の新社員でした。

実態を検証すると、①即戦力として期待するあまりに、初期指導が不足していた。②運搬作業に余裕が無く、とにかく急ぎ作業となっていた。の2点がありました。

この事例の反省に立ち、新入社員のケガ防止の取組み実践を報告いたします。

教育初日に台車の操作方を徹底的に指導しました。特に要注意箇所での操作方を繰り返し指導すると共にその箇所で、「何を注意し・確認するのか」を、細かく指導しました。

(1) ホーム・コンコース・エレベーター出口のお客様の多い所では、引きの操作で「お客

様との接触を防止」します。積極的に声かけをして重量物を運搬中であることを理解していただく。(2) 事務室入口のスロープでは押しで操作し「すべり転倒防止のため」電動の力に任せて強く押さないこと。(3) 地下駐車場入口は、「衝突防止のため必ず一旦停止」し「車の出入り」を確認すること。など「何のための、何を注意し、何を確認するか、操作方は」繰り返し指導し理解させました。

指導の成果により台車でケガ・事故がなくなりました。当然のことですが、指導の重要性を再確認したところです。「この位の事は理解しているだろう」は無いのです。「この場所では、これを注意する事」の様に、事細かく指導することが重要です。特に「新入時に基本動作」を確実に習得させることが重要です。そして、日々、基本動作が実行されているかを検証し、省略している時は、「その場注意」をし、徹底的に守らせることが重要です。この継続が、事故のない職場風土の確立につながると考えます。事故防止に近道なし。指導また指導を実感したところです。

「通勤災害体験と対策」

(株)東洋建物興業 辻 本 英 樹

晴れた休日は運動を兼ねて、自転車で買い物や、本屋に出掛ける。昨年秋頃は、交番付近で良く止められたが、最近はそれも少なく成り、快適そのものだ。ところが先日、同僚の家族が自転車同士の事故に巻き込まれた。

改めて自転車事故の危険性を思い知らされたが、大勢の方が、自転車通勤をしている実情から、通勤災害防止に参考になればと思います。

さて、その事故は自転車と自転車の追突事故で、相手は無傷、追突された同僚の家族は、腕に骨折を負いました。加害者側の保険を使い事故処理する事にしたそうですが、相手の保険会社の主張は、加害者と被害者が逆転してしまう過失割合だったそうで、被害者の自転車運転が、相手の進路妨害と急ハンドルによる進路変更が原因であると判断されたようでした。当然、納得出来ず、事故の詳細を申し伝えた所、保険会社の認識も変化し、後刻新たな回答を提示される事となったようである。昨今は自転車での死亡事故も発生している。保険での対応は、自動車事故における過去の判例を引用しているらしい。そもそも、自転車での交通事故は、最近クローズアップされているが、今迄裁判を行うような事故があまり無かったそうである。携帯電話の普及で、メールしながら、音楽をヘッドホンをつけて聴きながら、雨の日は傘までさして走行するのであるから、危険極まりない。しかし、私自身もそうだが、危険な乗り物に乗っている認識が全くない。歩かなくて良い便利な乗

り物である。だが、先に述べてように、自転車での事故は、自動車と同様の軽車両事故なのです。自分で自分を守る運転、備える必要のある事等挙げてみます。

- ① 盗難保険以外に、賠償責任保険等の加入を行う。(特に、対人)。
- ② 決められた、走路を安全に走行する。
- ③ 見えにくい、歩車道に出る時は、細心の注意を払う。(人や乗り物との事故防止)
- ④ 自動車と同じく、スピードの出し過ぎ、人込を縫うような走行は止める。(人を巻き込めば、過失傷害罪に問われる事がある。)
- ⑤ 雨の日は乗らない。(滑る路面や雨、傘で視界不良の運転では、非常に危険な状況が生まれる。無理の付く運転は絶対にしない。)
- ⑥ 前後左右だけでなく、上下にも注意が必要。(周り、道路状況等勘案した、安全運転)
- ⑦ ブレーキやタイヤの空気圧等、普段のメンテナンスも重要。等です。

通勤には、1秒でも早く現場や、最寄の駅に到着したいと思う。予期しない、そんな心の隙間に、突然起きてしまうのが事故なのです。注意し過ぎる事は絶対に有りません。通勤災害で苦しむのは、決して自分だけでは無い事を再認識して、安全運転に心掛け、元気で、健康に注意し、楽しく自転車を乗り続けたいと考えています。

以上

「無事故をめざして」

北海道クリーン・システム(株) 南 崎 絵梨花

私は、平成4年当時の北海道クリーンサービス(株)に入社後、札幌駅地価の商業施設パセオの清掃業務に従事してきました。

平成17年に当社と合併した後も、引き続き清掃業務に従事してきたが、平成二十年二月から、札幌支店で経理業務を担当し、受注業務に対する委託費の作業高に関する請求及び入金管理を行っています。

前社と当社を合わせると、入社して約十三年になります。

清掃業務に従事していた時は、「初心に返れ」の言葉を何回も耳にしてきました。

分かっているよと、思いながらも後輩を指導する立場になってくると、人にはいつも言っているが、自分にはどうだったのかと振り返ってみることが出来ました。

事故は起こせない、仲間に起こさせてはならないと、自分に言い聞かせ日々業務を進めてきました。

一昨年、機会があってビルクリーニング技能士試験を受験することになりました。

今まで、ポリッシャーもある程度操作できたし、モップ、タオル等の取扱、ワックス塗布も経験もあったので、何とかなるだろうと思っていました。

いざ練習に入ると、自分には何も基本が身に付いていないことが分かり、雑で危険な行為をしていたことに気がきました。

指導者から基本を教わり、悪いところを徹底

的に見直され、練習に練習を重ねました。

ポリッシャーの練習では、周囲の安全を確認しているか、足の運び方、コードを踏んだりしていないか、壁にぶついたらどんなに危険か、頭の中では分かっているけど多少ならいいや、今まで事故も起こさずに来ているのだからと言う「慣れの怖さ」を知りました。

そう自分初心に返っていなかったのだとふと気がきました。

一からやり直そう「初心に返って」やるんだと自分に言い聞かせ練習をすると、周りの雑音も気にならず、「無」になって練習が出来るようになってきました。

試験の当日、「初心に返れ」の言葉を心に刻み臨んだことで、大きなミスもなく無事に合格することが出来ました。

始めからうまく出来ていたらそれ以上の進歩はなかったと思います。

基本がなぜ大切か、今回のビルクリーニング技能士試験が教えてくれたと思います。

「初心に返る」この言葉を教訓に、事故は絶対起こさない、起こさせないという気持ちを大切に、しっかりと肝に銘じ、事故防止に邁進していきます。

「健康で長寿社会を生きるためには」

(株)ベルックス 滝澤和彦

「おじいちゃん、元気で長生きしてネー」東京に住んでいる10歳の可愛い孫から、ある日メールが届きました。その心遣いを大変嬉しく思い、胸が熱くなりました。その時、私は心の中で“孫が嫁さんに行くまでは、心身共健康で長生きしたいもの”とつくづく感じ日々の健康管理には十分気を配って生活しています。

日本人の平均寿命は、医学の発達と国民の健康志向によって毎年伸び、高齢化社会を迎えています。全国100歳以上のお年寄りアンケートによると、長寿の秘訣ベスト5は、(1)常に腹八分目 (2)イライラ、クヨクヨしない (3)笑顔のある円満家庭 (4)好き嫌いはしない (5)早寝早起きで規則正しい生活の順になっています。また、食事は野菜や魚が中心で、お酒は3分の1の人が飲んでいるようです。

平均寿命が伸びるのは大変喜ばしいことですが、その反面、老人痴呆の深刻な問題も起こっています。ボケの始まりは記憶障害からのケースが多く、物忘れがひどくなったり食事をしたのも忘れてしまったりします。また、目的もなく外出し我が家がわからなくなる場合もあるなど、知的機能も低下します。新聞で拝見したボケ診断では、軽度は「物事に対する興味が減退する、注意力がなくなり物忘れが多くなる」、中度では「ちょっと前のことが思い出せない、知的労働が出来なくなる」。高度のボケ状態になると「徘徊したり、自分の年齢、家族も分からなくなる」ようです。

ボケは、医学的には老人性痴呆と言われる病気の一つとか。原因は、加齢現象は勿論ですが、その他ストレスとか環境の変化によって起こるとも言われています。ストレスは、誰もが生きていく過程で大なり小なり抱えていることだと思います。社会の中では、人間関係を無視して生きていくことは出来ません。たった一言が相手を傷つけることもあります。何事においても、自分の考えだけを押しつけるのではなく、相手の考えを十分に聞いて判断することが大切なのではないでしょうか。

人間、もって生まれた性格はなかなか直すことが出来ないかも知れませんが、考え方は変えることが出来ます。ストレスが原因で病気になる場合も多くあります。できるだけストレスを溜めない生活を心掛けていきたいものです。時には、ストレスをプラス志向に切り換えることも必要と感じます。

健康増進の為に重要な事の一つに、食生活があります。栄養のバランスを考えて一日30食品が必要とされ、塩分や糖分は控え目に摂取することが大切です。食事の中身によって健康が約束されたり、病気を引き起こしたりします。病気の7%は、食事の摂り方で予防が出来ると言われています。

人生80年の時代です。健康で長生きするために「頭」と「あご」と「手足」をこまめに使い、規則正しい生活で「日々是好日」明るく元気でよりよき人生を送りたいものです。

平成21年度 労働災害防止標語 入賞者

金賞

「慣れ」よりも 「何故」の作業に ヒヤリなし
 北海道互光(株) 小田島 睦

銀賞

不安なら 必ず行う再確認 やったつもりは 事故の元
 (株)東洋建物興業 瀧 三津夫
 危険予知 目線をかえて 見つかる危険 (株)ベルックス 脇坂 好孝

銅賞

見慣れた目より、見直す目、職場の改善私から
 北海道クリーン・システム(株) 田中 和夫
 今一度 この目この手で 安全確認
 東京美装北海道(株)釧路支店 岡村 一男
 何時も持て「かも知れない」の危機管理 協和総合管理(株) 越尾 由正

佳作

捨てません ゴミもモラルも 優しさも (株)クリーン開発 村田 まり子
 急ぐほど怠る確認 増す危険 協和総合管理(株) 松岡 隆
 労災ゼロの大航海 過去の事故例 道しるべ (株)東洋建物興業 杉岡 正美
 慣れるほど 基本にかえる プロ意識 日本クリーン北海道(株) 酒井 和子
 怖いのは無事故慣れしたその油断 協和総合管理(株) 鈴木 静夫
 もう一度 この目この手で 安全確認 日興美装工業(株) 中山 次郎
 知っていて 守らぬ油断が事故のもと
 北海道クリーン・システム(株) 廣瀬 邦雄
 急がず 慌てず 気を抜かず 今日も一日 安全作業
 北海道クリーン・システム(株) 浅野 喜美代
 したはず、みたはず、やったはず、全てはずれて事故になる
 北海道クリーン・システム(株) 大谷 直也
 安全は 無理なく無駄なく 抜かりなく
 北海道クリーン・システム(株) 佐々木 啓子
 気を抜くな 慣れた作業に かくれる危険
 日本クリーン北海道(株) 若山 賢一
 分かってる つもりが招く 落とし穴 日本クリーン北海道(株) 柴野 喜恵子
 痛いのは 君だけじゃないよ 労災は！！ (株)ベルックス 竹内 幾子
 チョット待て それでいいのか その手順
 身近に危険が 迫ってる 東洋実業(株) 谷 徹
 ヒヤリハット 慣れと油断が命とり
 予知して摘み取れ危険の芽 (株)アスピック 後藤 哲也
 返すまで 身から離すな 鍵・カード
 東京美装北海道(株)札幌支店 新関 大輔